

1 研究主題

授業力の向上を目指して～講演や実践・教材等の情報交換から～

2 研究の概要

(1) 第1回部会 「事業計画の立案」 会場 中条小学校 15:30～ 参加者8名

(2) 第2回部会 「講演会」 会場 築地小学校 9:00～ 参加者6名

① 講演 気付きの質を高める授業

② 講師 土田 利康 様 (新発田市立二葉小学校)

③ 概略

- 生活科の教科目標は、具体的な体験を通して最終的に自立への基礎を養うものであり、生活科の9項目のどの内容でも重視することは、『気付きの質を高める』ことである。「無自覚なものから自覚された気付きへ」「1つ1つの気付きから関連された気付きへ」「自分自身や自分の生活について新たな気付きへ」と、子どもの気付きを高めていくことである。生活科は、これらのことさえ押さえて行えば、自由にできる教科である。

- ダイナミックな生活科(「日本海へこぎだそう」「とべ! えちごの大空へ」「われらは森のオーケストラ」の実践から)

- 動植物の飼育栽培では、1年生がアサガオでなければならないということではない。目の前の子どもに何がふさわしいのかということを考えて決める。飼育栽培の活動を長続きさせるには活動に対する教師の意図的な働き掛けが必要である。

- 子どもの感想からだけでは、なかなか気付きを拾うことはできない。子どもの気付きを見取るには、例えば、今日の活動では5人だけと決めて見る、グループ活動では「〇〇さん、どうやっていたの」などと他の子どもに聞く、ボイスレコーダーで録音するなどの手だてが有効である。

(3) 第3回部会 「授業実践発表」 会場 築地小学校 15:00～ 参加者8名

- 授業実践をレポートにまとめ、成果と課題を伝え合い、実践上の問題点等の情報交換を行った。



3 成果と課題

(1) 成果

① 第2回部会の講演では、子どもの気付きをどう見取るかということ、自分自身についての気付きは教師の方で活動を振り返らせ、自分のやってきたことを価値付けてやるのが大切であることなど、分かりやすく話していただいて参考になった。

② 第3回部会では、昨年度の反省から授業実践発表会のみを行うことにした。そのため、十分に時間を取ることができ、実践のよさを確認し合ったり、実践上の問題点を共有したりすることができた。

(2) 課題

① 第2回部会の講演では、講師の先生の実践についてお話いただいたが、おもちゃ作りの実践に出てきたおもちゃを実際に作ってみる活動を取り入れられると良かった。